

研究主題「基礎・基本の定着を図る社会科学学習の展開

－問題解決的な学習、教材の在り方を考える－

東京都教職員研修センター研修部専門研修課
 町田市立町田第六小学校 教諭 高藤 浩

I 研究の背景とねらい

現行学習指導要領を設定するに当たって、その基本方針を示した教育課程審議会答申には、「ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図る。」とある。

また、平成14年当時の文部科学大臣は、「学習指導要領で示されている内容は最低基準である。」と述べている。このことは、学習指導要領で示されている内容が、すべての児童に身に付ける基礎・基本であることを示していると考えられる。

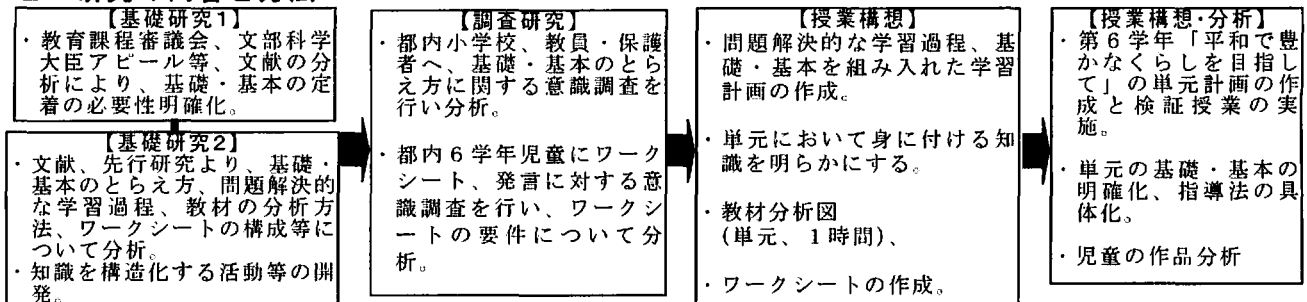
以上のことから、社会科学学習においても基礎・基本の確実な定着を図ることが重要である。

しかし、社会科の学習において、児童が身に付けるべき基礎・基本のとらえ方は、指導者によって違いが見られるという現状がある。また、保護者の中においても、児童が身に付けた基礎・基本が見えにくいという実態もある。したがって、本研究では、社会科学学習における基礎・基本を明らかにすることを研究のねらいの一つとした。

また、明らかにした基礎・基本を、児童が主体的な学習を行うことによって、獲得することができる学習活動を展開する必要があると考え、次の3点も研究のねらいとした。

- 1 児童の主体的な活動を問題解決的な学習ととらえ、単元を通じて獲得する基礎・基本との関係を明らかにすること。
- 2 基礎・基本を明確にするための教材の分析方法を明らかにすること。
- 3 明らかになった基礎・基本の獲得を促すためにワークシートの開発を行うこと。

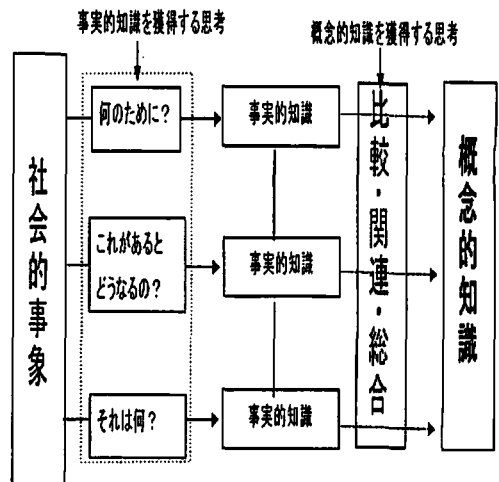
II 研究の内容と方法



III 基礎研究より

1 社会科学学習における基礎・基本

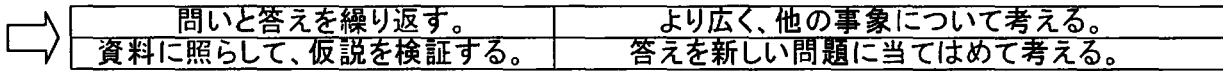
学習指導用要領や文献等より、社会科学学習における基礎・基本は、知識面、能力面、態度面の三つを身に付けることであるということが分かった。これらの三つのうち、本研究では知識面に焦点を当て、基礎を事象と事象との因果関係を説明できる「事实的知識」、基本を社会的な見方、考え方の内容的側面の「概念的知識」と規定した。また、「事实的知識」「概念的知識」を獲得するための思考方法、獲得する知識の構造を右の図のように考えた。



2 本研究における問題解決的な学習過程

J・デューイの問題解決学習、先行実践における問題解決的な学習過程を参考に、本研究における問題解決的な学習過程を次のように規定した。

事象に気付く。	学習問題の設定	自分の考えを明らかにする。 仮説を設定する。	問いを焦点化する。 資料を収集し評価する。
問題の発見 調査する問題を明確にする。			



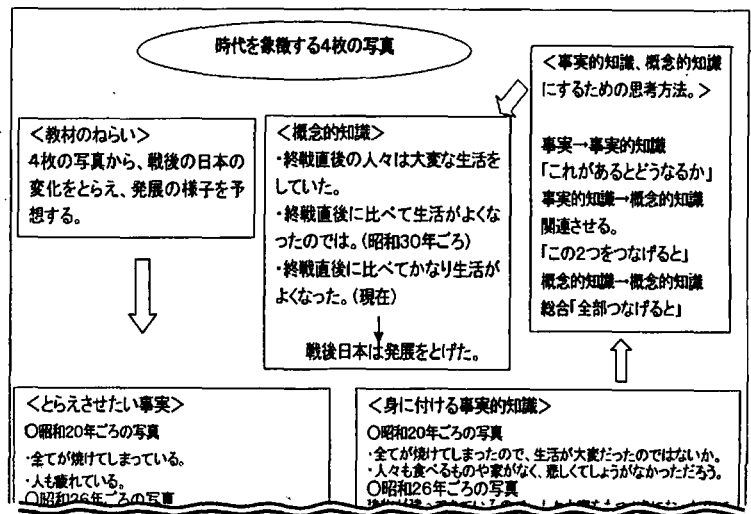
(※上段は学習過程。下段は各学習過程において、児童の学習活動を明確化したもの。)

また、この問題解決的な学習過程に、児童が獲得する、「事実的知識」、「概念的知識」を位置付け、構想図を作成した。

3 教材の在り方を考える

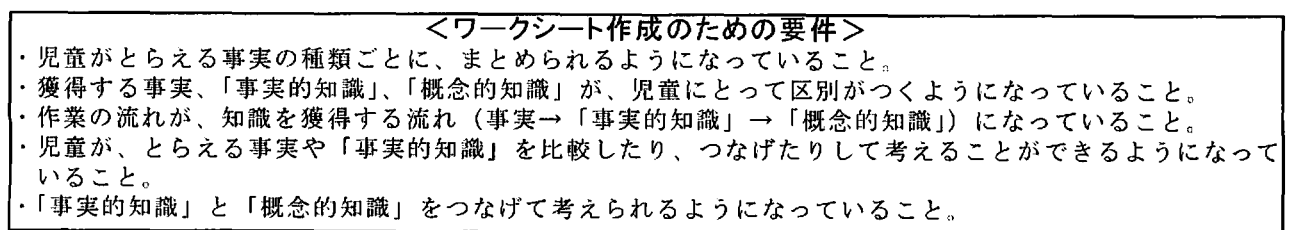
(1) 教材構造図、分析図の作成

単元全体の教材構造、授業で使用する主な教材について、そこからどのような社会的事象に気付き、「事実的知識」、「概念的知識」を獲得していくのかを明確にするために、教材構造図を作成した。



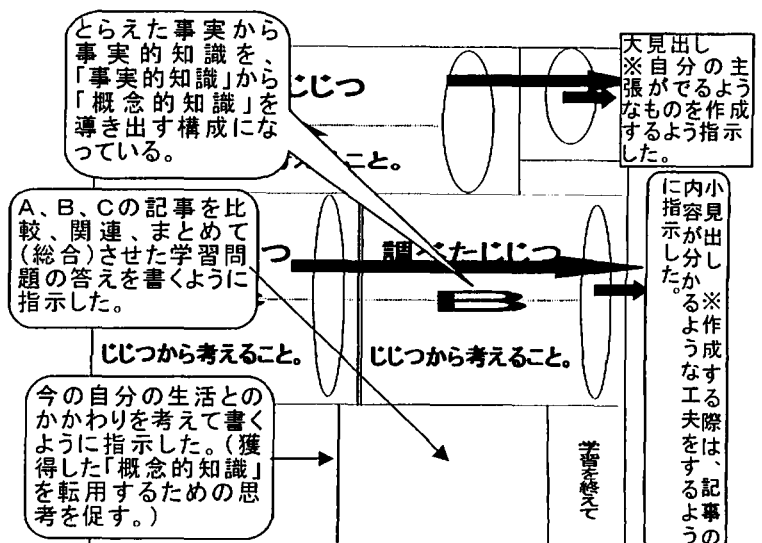
(2) ワークシートの開発

児童が「事実的知識」「概念的知識」を身に付けるために、児童への調査結果を基に、作成のための要件を以下のように考え、検証授業において作成した。



4 知識を構造化するための活動の開発

児童が獲得した「事実的知識」は、構造化されることによって、「概念的知識」へと発展させることができる。検証授業では、学習問題を追究する活動として新聞作りを行い、その作成によって「事実的知識」を構造化できるよう、意図的に学習活動を設定した。



5 実感を伴って知識を獲得するための工夫

歴史上の出来事を、実感を伴って理解し、「事实的知識」、「概念的知識」の獲得を促すために、地域の方からの聞き取り活動を学習過程の中に設定した。

検証授業では、終戦直後の生活の様子、そして、東京オリンピック開催当時の社会の様子について、ゲストティーチャーを招き、聞き取り活動を行った。

IV 研究の成果と課題（検証授業の児童の学びを通して）

1 考え方を提示し、ワークシートの工夫を行えば、「事实的知識」「概念的知識」の獲得につなげることができる。（成果）【A児の学びの姿を通じて】

検証授業では、教材構造図、分析図を通して明らかとなった、「事实的知識」「概念的知識」を児童が獲得するための考え方をヒントカードとして提示した。また、学習問題を追究する段階では、前述の要件を備えたワークシートを使い、新聞作りを行う活動（第6、7、8時）、友達の新聞を見て学び合う活動（第9時）を行った。

その結果、A児は、「戦後日本は、民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会において重要な役割を果たしてきた」という「概念的知識」を獲得することができた。

考え方の提示

- 1 調べたことの実事だけ書く。（自分の考えは書かない。）
- 2 調べたことからつなげて考える。（Aは～のことである。だから～のように考えられる。）
- 3 調べたことを比べて考える。
 （AとBを比べると～が同じだったから、～と考えられる。AとBを比べると～が違うから、～と考えられる。）
- 4 調べたことをまとめて考える。（AとBとCの同じ点は～だから、～と考える。AとBとCの違う点は～だから～と考える。）

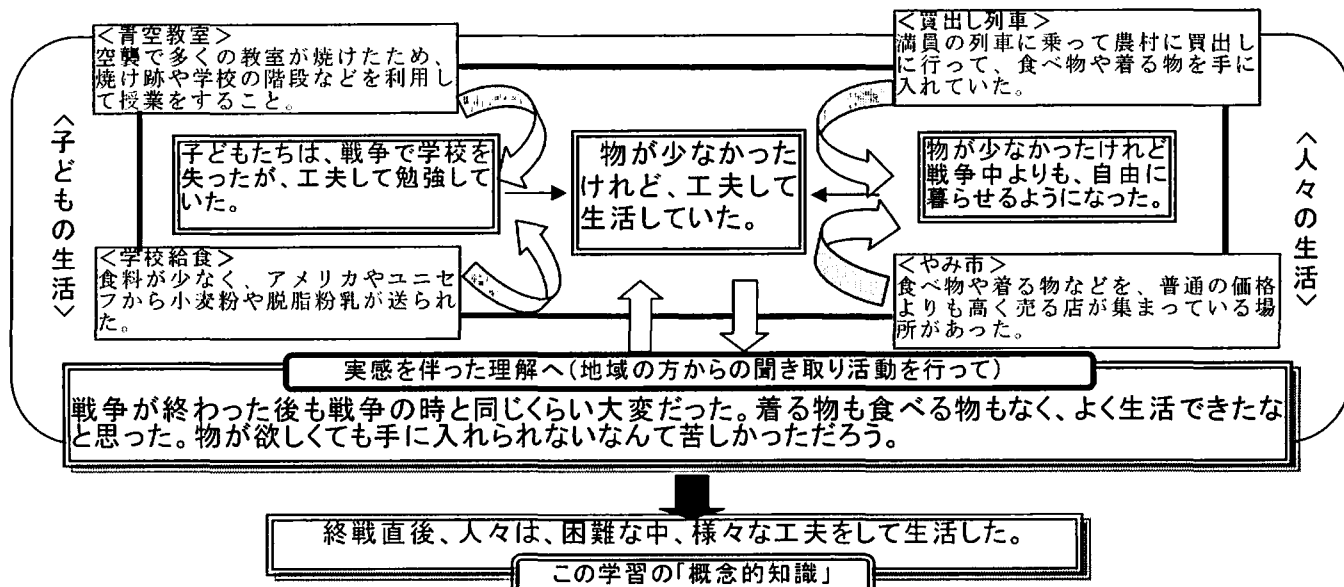
▼ A児の学びの姿（ワークシートの記述より）

<p>＜児童が獲得すべき「概念的知識」＞ 戦後日本は、民主的、平和的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たすようになってきた。</p>	<p>学習問題 東京オリンピックに向けて、日本はどのように発展したのだろう。</p>
<p>＜第6、7、8時の記述＞</p>	
<p>○事実(抜粋) 東京オリンピックは、アジアで初めて行われたオリンピックで、大改造が行われた東京は、近代的な都市に変わっていった。</p>	<p>○事実から考えられること オリンピックは人々の生活に関係が深かった。これをきっかけに経済が発展し、世界から認められた。</p>
<p>○事実(抜粋) 昭和30年を過ぎると電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気掃除機などの家電製品が急速に普及した。</p>	<p>○事実から考えられること これまで時間をかけていた家事も少し楽をできるようになって、料理を楽しむことができるようになった。生活が洋風化したのでは。</p>
<p>○事実(抜粋) テレビの放送が始まったのは1950年代初めで、カラーテレビが普及したのは1970年代半ばである。</p>	<p>○事実から考えられること スポーツなどが見られるようになり、楽しみが増えた。テレビのおかげでコマーシャルができるようになり、物を買う人が増えた。</p>
<p>＜学習問題に対する考え＞ 全部を考えてみると日本は戦争の反省から、外国と仲良くしようとしていることが考えられる。人々の生活もより洋風化している。技術も戦後の方が発達している。日本は外国に追いつこうとして人々もその影響で今までと違った生活をしてきた。</p>	
<p>＜第9時の記述＞</p>	
<p>○事実(抜粋) ・日本国憲法 日本が新しく生まれ変わるための憲法。日本がどのように進むかを示したもの。 ・新しい教育制度 義務教育が小中学校の9年。民主主義の考え方を理解するよう教えられた。</p>	<p>○事実から考えられること。 日本は国民が主人公となり、民主主義の国として、生まれ変わった。</p>
<p>○事実(抜粋) ・サンフランシスコ講和会議 1951年日本は再び国際社会に復帰。 ・国際連合加盟 1956年、80番目に加盟。国際社会の仲間入りを実現。</p>	<p>○事実から考えられること。 日本は外国とのつながりが深く、国際社会に復帰した。</p>
<p>＜この時代を文で表すと＞ この時代は、今までと全く違う平和的(国際的)な国を目指した。</p>	

2 身近な人々からの聞き取り活動は、実感を伴う理解を促し、「概念的知識」の獲得につなげることができる。(成果)【A児の学びの姿を通して】

▼A児の学びの姿(記述より)

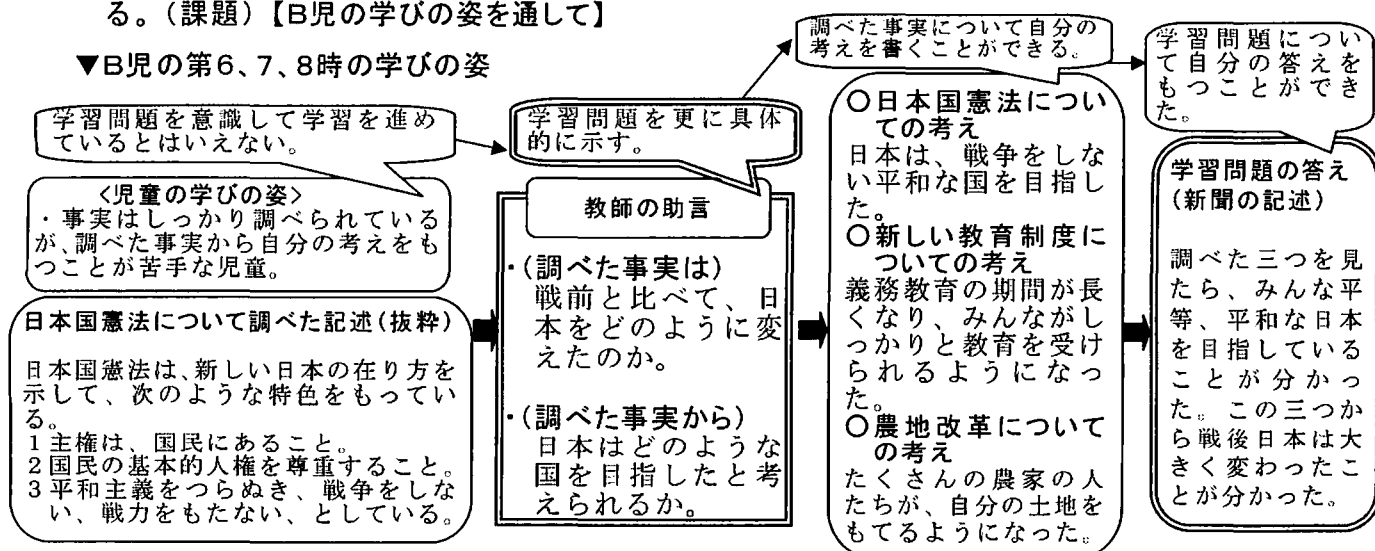
獲得した「事実的知識」 □ 獲得した「概念的知識」 □



終戦直後の生活についての調べ学習で、A児は、「戦後直後の人々は、様々な工夫をして生活していた」という「概念的知識」を獲得していたが、「様々な困難な中」という「概念的知識」の獲得は十分ではなかった。しかし、A児は、次の時間に行った、地域の方からの聞き取りを行うことによって、「様々な困難な状況の中、生活していた」という「概念的知識」を獲得していた。このA児の学びの姿から、実感を伴って理解することができる学習活動を設定し、「概念的知識」の獲得を促すことが重要であることが分かった。

3 児童が学習問題を常に意識して調べ学習が行えるよう教師の働きかけを工夫する必要がある。(課題)【B児の学びの姿を通して】

▼B児の第6、7、8時の学びの姿



このように、B児の学びの姿から、学習問題に対して、児童自身が、細かい思考過程を経て、自分の答えを導き出す助言を行う必要があることを学ぶことができた。学習問題を追究し、その答えを導き出すことは、「事実的知識」、「概念的知識」を確実な獲得を促すために重要である。児童の思考を学習問題へ導くための補助的な助言等を今後も考え、実践していきたい。